Escape to World



エコビレッジ探検 vol.2

どうなの？ どんなの？

エコロジー団地「池田の森」

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

今回ご紹介するのは、静岡市駿河区にある、エコロジー団地「池田の森」です！

JR東静岡駅から車で5分、1万3000平方メートルの敷地内に、子育て世代を中心に32世帯が暮らしています。敷地の真ん中には畑と田んぼが広がり、初めて訪れても何だか懐かしい気持ちにさせてくれます。

池田の森を立ち上げたのは、土地の所有者である漆畑成光さん。ゴルフ練習場だった場所の活用方法を考えていたところ、エコビレッジと出会い、自然があって子どもが楽しく暮らせる田舎をつくろうと立ち上がります。5年がかりの構想を経て、グランドデザインを自ら手掛け、2004年からオープン。「畑が真ん中にある風景にしたかった」と漆畑さん。畑は19区画に分けて貸し農園として住民が利用していて、利用者で農園クラブをつくり、池田の森の交流の要になっています。



田んぼの様子。田植えや稲刈りは住民が自由に参加できる。

池田の森の特徴は、適度な距離感の人間関係とゆるやかな一体感。一戸建て分譲地として、個々の住宅には、雨水タンクが既設されている以外はエコについての規制は特になく、共通のルールも最低限。市街地から近く、住環境に惹かれて住み始めた人がほとんど。住み始めてからエコに興味を持ち始める人が多いよう。「エコロジーを感じる雰囲気づくりが大事」、と漆畑さん。ここは、オープンで自然体、ハードル低めの市街地型エコビレッジと言えそうです。

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECO VILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
エコビレッジに関係する国内外の人々が東京に集い、世界の先進事例や日本国内の動きの発表・情報交換をする会議。http://begoodcafe.com/main/ecvc2009

エコビレッジの基礎知識



エコロジーを感じる雰囲気づくりが大事。

Escape to World



エコビレッジ探検 vol.1

どうなの？ どんなの？

エコビレッジことはじめ。

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

こんにちは。「エコビレッジ国際会議TOKYO」事務局の片岡麻衣子です。今回から、「エコビレッジ」をテーマに連載をお届けします！　どうぞよろしくお願いします。

さて、「エコビレッジ」という言葉、耳にしたことがある方も増えているのでは？　エコビレッジを、簡単に説明すると、「エコ＝環境負荷の少ない工夫」を取り入れていて、「ビレッジ＝人と人が支え合う仕組み」を持った、暮らし方やコミュニティのことです。

具体的には、食料やエネルギーの自給や、雨水利用や生ゴミの堆肥化など循環の仕組み、住人たちの間で支え合う工夫や共有スペースの整備など。エコビレッジは、世界に1万5000か所以上あるといわれています。気候温暖化やエネルギー問題、食の安全、農村の再生など、現代社会が直面する様々な問題に対し、一つの解決策を提示するライフスタイルモデルとして、注目されています。



スコットランドの歴史あるエコビレッジ「フィンドホーン」のお祭りの様子。

そんな取り組みを共有する場をつくろうと、私たちは、2006年から、「エコビレッジ国際会議TOKYO」をスタートさせました。

過去2回は海外ゲストを招いての世界の先進事例の紹介が主でしたが、今年4月の第3回目の開催では、日本の事例が充実し、全国から実践者が集結しました。

エコビレッジの特徴は、形が決まっていないこと。先進国／途上国、都市部／農村部も問わず、それぞれの状況にあったスタイルがあります。次回からは、わくわくする具体的な事例を紹介します！

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECO VILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
エコビレッジに関係する国内外の人々が東京に集い、世界の先進事例や日本国内の動きの発表・情報交換をする会議。http://begoodcafe.com/main/ecvc2009

エコビレッジの基礎知識



世界には1万5000以上ものエコビレッジがある。

Escape to World



エコビレッジ探検 vol.4

どうなの？ どんなの？

「ゴジカラ村」

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

今回ご紹介するのは、名古屋市のお隣、長久手町にある「ゴジカラ村」。地元の雑木林を守ろうという想いから、雑木林を中心に据えた支え合いの「村」づくりをしている事例です。ムカデもスズメバチも出る林の中に、木造の幼稚園や特別養護老人ホーム、ケアハウス、介護専門学校などの福祉・教育施設があります。敷地は約1万坪。村といっても行政区分としてではないですが、レストラン（夜は居酒屋）やミーティングスペース、図書館もあり、近所の方がボランティアとして運営を手伝うなど、人が行き交うコミュニティなのです。



「もりのようちえん」の様子。ひたすら遊ぶのだとか。

商社勤めを経て地元に戻り、「村長」として村づくりを進める吉田一平氏が目指しているのは、様々な人が交じって暮らす、まさに雑木林のようなコミュニティ。「大勢の多世代が交わりあっていると、煩わしいことも起こるし、決め事に時間もかかる。しかし、そうした回り道こそが人間関係のあり方であり、安心感や個人としての力強さを育む」と吉田さん。「ゴジカラ」は「17時から」。

「夕方までの競争や効率優先の時間から誰もが裸の自分に戻る、そういう付き合いがいつもある場所という願いからつけた」。

2011年頃には、新たにコーポラティブ住宅の「ミクスチャーハウス」が加わる予定。共有スペースが充実し、多世代が支え合って暮らす場所として、さらに村がパワーアップ!? 詳しくは今年の国際会議で紹介予定ですので、乞うご期待！

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECO VILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
エコビレッジに関係する国内外の人々が東京に集い、世界の先進事例や日本国内の動きの発表・情報交換をする会議。http://begoodcafe.com/main/ecvc2009

エコビレッジの基礎知識



「交じって暮らす」ことが人間関係を育む。

ゴジカラ村代表・吉田一平氏

Escape to World



エコビレッジ探検 vol.3

どうなの？ どんなの？

学びの場「CAT」

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

今回は学びの場としてのエコビレッジをご紹介します。

英国ウェールズ地方にある、CAT（The Centre for Alternative Technology）。直訳すると代替技術センターとお堅いですが、サスティナブルなライフスタイルを体感できるテーマパークといったところ。2・8ヘクタールに及ぶ館内は、太陽光、水力、風力、波力など自然エネルギーの仕組みに加え、省エネルギー、リサイクルなどのアイデアが満載。日帰りはもちろん、宿泊できる研修施設もあります。



自然エネルギーの生産・自給による自給的暮らし体験のできるエコキャビン。

このエコビレッジの特徴としては、暮らしに密着した具体的な仕組みを体験するため、研修参加者が実際に宿泊でき、誰でも自分で建てられるように工夫された省エネ型セルフビルド住宅や、住宅向けのオーガニックガーデン、コンポストトイレや廃品で造った子どもの遊び場など、多くのエコビレッジで実際に取り入れられている工夫を体感できる点です。

エコビレッジ国際会議TOKYOのアドバイザーでもある日本大学の糸長浩司教授は、CATの魅力をこう教えてくれました。

「CATは35年前にエコビレッジとして若者たちでスタートし、現在はエコライフ教育センター、持続可能な地域づくりの拠点として機能しています。ロンドンの大学やウェールズ州政府と連携した、大学院教育や環境教育に力を入れ、持続可能な地域社会の変革の拠点にもなっているのです」

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECO VILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
エコビレッジに関係する国内外の人々が東京に集い、世界の先進事例や日本国内の動きの発表・情報交換をする会議。http://begoodcafe.com/main/ecvc2009

エコビレッジの基礎知識



「学び」の機能も重要な要素。

日本大学・糸長浩司教授

Escape to World



エコビレッジ探検 vol.5

どうなの？ どんなの？

「米国の未来型都市アルコサンティ」

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

©Tomoaki Tamura

今回ご紹介するのは、"エコビレッジ型都市"とでもいうべき、米国アリゾナ州中部で建設されている「アルコサンティ」。米国人建築家パオロ・ソレリ氏の構想のもと、砂漠の大地で1970年にスタート。以来、40年かけ、延べ6000人が参加し、建設を進めている継続中の都市づくりプロジェクトです。アルコサンティは、ソレリ氏の都市理論「アーコロジー」（建築とエコロジーの合成語）を具現化したもの。機能がコンパクトでかつ凝縮され、スペースやエネルギーを最大限有効利用できる、自己充足型都市をつくり出しています。これは、自動車への依存により巨大化し、資源を浪費する現在都市に対するアンチテーゼでもあります。

©John Tsutsi



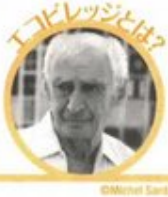
太陽熱を利用した温室で農作物を栽培。熱は空調にも利用される。

都市内は、徒歩や自転車の移動を想定して設計され、太陽エネルギーを最大限に吸収し、太陽熱を農作物栽培や空調に利用するなど、自然エネルギーを活用。ビジターセンター、レストラン、屋外劇場、オフィスなどがすでに完成し、100人ほどが在住しています。また、ワークショッププログラムを通し、建築作業に従事しながら滞在することも可能。とはいえ、これは想定人口5000人を目指す計画全体の3%程度で、完成まであと300年はかかるそう。壮大で何だかワクワクしませんか？

次回のエコビレッジ国際会議TOKYOでも、こういった都市計画や低炭素社会づくりといったマクロな視点からも議論を予定していますので、乞うご期待を！

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECOVILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
2006年からスタートしたエコビレッジをテーマにした国内唯一の国際会議。次回は今年5月に開催予定。
http://ecovi.begoodcafe.com/



エコビレッジとは？

自然と都市活動の調和を目指す壮大な実験。

建築家 パオロ・ソレリ氏

©Michel Sarda

Escape to World



エコビレッジ探検 vol.6

どうなの？ どんなの？

「里山長屋暮らし〜藤野プロジェクト。」

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

今回ご紹介するのは、都心から電車で1時間、神奈川県相模原市藤野町を舞台に、4世帯が力を合わせて「持続可能な暮らし」を模索するプロジェクト。藤野町でパーマカルチャーの講座を受講していた仲間が集まってスタートしました。



ワークショップの様子。たくさんの人の知恵が集まります。

共に暮らし、空間や知恵を分かち合う「里山長屋暮らし」。懐かしくて温かいネーミングには、かつての日本の長屋のようなコミュニティをつくりたい、という思いが込められているそう。山と畑に囲まれた200坪あまりの土地に、一続きになった4世帯の長屋と、ゲストルーム機能もある共有スペースが連なって建つ予定で、塗装などできる部分は手づくりしながら進められています。「"家づくり"ではなく、"暮らしづくり"」というメンバーの言葉に、暮らし方を模索する意気込みを感じます。

先日は、誰でも参加できる、土壁用の土づくりワークショップを開催。長屋はすべて土壁になるそうで、土と稲藁を練る作業が行われました。体験はブログですぐに共有されます。

竣工は今年の夏を予定。住人は、建築家や編集者などバックグラウンドも様々です。地元の人も巻き込んで、人と人のつながりからたくさんの知恵が集まり、可能性がどんどん生まれています。

さて、エコビレッジ国際会議TOKYOでも、私も暮らしづくりをしたい！　という人のために、専用コミュニティをスタート。ぜひご活用を。

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECOVILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
2006年からスタートしたエコビレッジをテーマにした国内唯一の国際会議。次回は5月28日〜30日に開催。チケット絶賛発売中、詳しくはウェブへ！
http://ecovi.begoodcafe.com/



エコビレッジとは？

オープンで楽しく。持続可能な暮らしづくり。

里山長屋暮らし 自ら住む設計者　山田貴宏氏



エコビレッジ探検 vol.8

どうなの？ どんなの？

AManTO天然芸術プロジェクト

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

1軒のカフェが起爆剤となり、古き日本も新しい文化も入り混じって、アートを軸に支え合うコミュニティが育っている地域があります。舞台は、大阪駅近くの都心にありながら、戦前の長屋の街並み残る大阪市北区中崎町。お葬式には町民全員が参加するなど、風習も昔のままの平均年齢60歳の町で、2001年、ダンサーのJUNさんが、築130年の長屋を改装してカフェ『Salon de AManTO（アマント＝天人）』をつくって住み始めたのがきっかけ。お金をかけず、釘も叩いて伸ばすなど廃材を全て利用して、100%リサイクルを実現。その後、続々とセルフビルドで古民家を改装したカフェや雑貨屋が集まり、あっという間に100店舗。内、AManTOメンバーが直接運営しているのは11軒。映画館や劇場、ゲストハウス、ミニFMや店舗間で地域通貨もあります。町内会にも参加するJUNさんが新しい住民との橋渡しになり、担い手がおらず休止になっていた祭りも復活しました。



中崎町夏祭り。新たなメンバーが加わり新しい踊りも作った。

「中崎町の街並みや文化を残しながら、教育、福祉、環境が一体にある、公園みたいな場所をつくりたかった」とJUNさん。今後はエネルギーの自給も目指し、「ただ消費するのではなく、育て、共有し、与えていく場所」として、さらなるユニークな展開に期待。

さて、第4回エコビレッジ国際会議TOKYOは間もなく開催！ JUNさんは5月29日（土）に登場しますのでお楽しみに。

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECOVILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
2006年からスタートしたエコビレッジをテーマにした国内唯一の国際会議。次回は5月28日～30日に開催。チケット絶賛発売中、詳しくはウェブへ！ http://ecovi.begoodcafe.com/



エコビレッジとは？

世代を超えて人が集い、交わり、創造する公園みたいな場所

Salon de AManTO代表、天然芸術家 JUN氏



エコビレッジ探検 vol.7

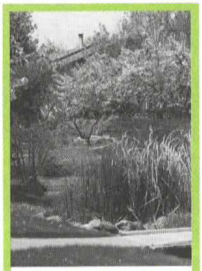
どうなの？ どんなの？

米国ビレッジホームズ。

文●片岡麻衣子（エコビレッジ国際会議TOKYO事務局）

今回ご紹介するのは、米国カリフォルニア州デイビスの低炭素コミュニティ『ビレッジホームズ』。建築家のマイケル・コルベット氏が1975年にプロジェクトを開始して以来、持続可能な住まいのモデルとなってきた先駆的事例です。

30年以上経て今なお注目されるのは、低炭素の仕組みも、住民がつながる工夫も緻密に設計され、それがきちんと機能しているところ。例えば、240戸の住居や公園、保育園、コミュニティ施設などで構成される27・5ヘクタールの敷地内には、果樹の街路樹が広がります。エディブルランドスケープと呼ばれる景観で、住民は四季を通じ、リンゴなどの果樹を味わうことができ、また共同での世話により住民間の交流の場としても機能。もちろんヒートアイランドの抑制効果も。また、各住居は太陽熱をそのまま利用するシステムを取り入れ、夏は温水の100%をカバー、冬は暖房いらずの快適な生活が送れます。ほかにも、歩行者と自転車の移動を優先した設計や、雨水を浸透させる自然排水システムなど。こうした工夫により、エネルギーの消費量は周辺地域の半分。さらに、住民間の交流は、犯罪率の少ない安心・安全な暮らしを実現しています。



エディブルランドスケープ。収穫パーティなどイベントも盛ん。

第4回エコビレッジ国際会議TOKYOには、コルベット氏とともに設計、建築に携わってきたエリザベス・マクダーモット女史が来日！ ビレッジホームズの取り組みはもちろん、その理念を受け継ぐ新プロジェクト「Shepards Close」についても紹介予定です。

エコビレッジとは？
環境負荷の少ない工夫と、人と人が支え合う仕組みを取り入れた暮らし方やコミュニティのこと。

ECOVILLAGE CONFERENCE TOKYO
エコビレッジ国際会議TOKYOとは？
2006年からスタートしたエコビレッジをテーマにした国内唯一の国際会議。次回は5月28日～30日に開催。チケット絶賛発売中、詳しくはウェブへ！ http://ecovi.begoodcafe.com/



エコビレッジとは？

住民が心地よくつながる、低炭素コミュニティ。

エリザベス・マクダーモット女史